

■ 平成27年10月27日～10月28日 経済労働委員会県外調査（北海道）

1 10月27日 新十津川町役場（北海道樺戸郡新十津川町）

【調査目的】

商工業・農業・林業施策の概要について

【調査概要】

新十津川町における産業振興課の事業概要について説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

＜説明の概要＞

○町面積は495.47km²。町人口は6,897人（平成26年度）。

○商工業者等数は188人、商工会会員数は114人、加入率は67.5%（平成27年3月31日現在）

○農家戸数は356戸（平成26年度）、約4割減少（平成元年度比）。

農家人口は1,307人（平成26年度）、約2,000人減少（平成元年度比）。

○森林面積は、38,341haで、町全体面積の77.38%。

○重点的な事業

①農業の振興

農産物のブランド化の支援（110万円）、地域おこし協力隊の受け入れ（674万円）

有害鳥獣の駆除（364万円）、無人ヘリオペレーターの養成（100万円）

水稻種もみ購入の助成（648万円）

②林業の振興

町有林の保育管理（407万円）、民有地への植林活動の支援（344万円）

森林を有効活用するための調査研究（46万円）

③商工業の振興

中小企業への資金保障融資（3099万円）、企業振興の促進（59万円）

④観光の振興

プレミアム付商品券の発行支援（2400万円）、観光PRの推進（395万円）

イベントの共催（775万円）、キャンプ村の維持管理（344万円）

【質疑応答】

Q：全国的に少子高齢化で、農業の後継者の問題もあり、若い世代が村に定着するのにどのようなことをしているか。

A：近年はIターン、Uターンということで、後継者が少し戻ってはきているが、離農には追いついていない。後継者がいない土地を現在いる農業従事者で引き継ぐか、法人化して空いた農地がないように考えていかなければならない。水稻には初期投資がかなり必要である。新規就農は、園芸作物などに限られると考えられる。町とJAで出資して、農業公社を設立ができたところで、公社を中心に担い手の育成支援を進めていかなければならない。

Q：鳥獣被害について、どのような対策をしたら、きちんと減少するのか。



A：一部の地区では、中山間の交付金を利用して、電網を張っている所もある。一部であっても、そのシカは別の所へ行くし、本町で一生懸命獲っても、周りの町で温度差がある。広域で取組を一緒にしていかなければならないと思う。シカは色々な所に出るので、一斉にしなければ、逃げて戻っての繰り返しになる。

2 10月27日 ピンネ農業協同組合（北海道樺戸郡新十津川町）

【調査目的】

日本酒の原料となる酒造好適米の生産等について

【調査概要】

組合の概要、酒造好適米の生産について説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

＜説明の概要＞

- 農地の状況（平成26年）：経営耕地面積7,221.5ha、水稻5,208.5ha
- 畑作物作付面積（平成26年）：総計1,771.2ha、秋小麦366.1ha、大豆206.0ha、
- 水稻作付（平成26年）：ななつぼし2,875ha、ゆめぴりか1,095ha、吟風101ha、きたしずく17ha
- 青果物作付（平成26年）：玉葱30.7ha、馬鈴薯16.3ha、ミニトマト12.0ha
- 組織概要：組合員592名、准組合員1,517名、組合員総数2,109名、正組合員戸数544戸
- 販売事業（平成26年度）：総額61億円、米49億円で、全体の81.3%を占める。
- ピンネの酒米は北海道で半分の作付面積を有する。道内、道外の酒蔵で採用。
- 地域の生産者を厳選して行っている。地域は学園・吉野地区。生産者も、高品質米を生産している農家に限定。
- 産地指定（出荷実績）：平成26年産米では、きたしずくで1,645.5俵、吟風で11,413俵。
- 作付面積（平成27年度）：吟風9,896ha、きたしずく1,740ha。作付戸数16戸。
- ピンネ酒米生産組合の取組
酒米生産者の選定・団地化、低タンパク・高整粒な高品質酒米を目指す
高温一発乾燥ではなく全量二段乾燥
全量がライスボックス21へ出荷。地区仕分米として、出荷後施設にてブレンドしている。

【質疑応答】

- Q：儲かる農業として、果樹栽培や野菜などの状況はどうか。
- A：メロン、ミニトマトなどの振興作物にも取り組んでいるが、少子高齢化で離農者が多く、農地を引き受けると、野菜まで手が回らないのが現状である。振興作物について、毎年大阪でピンネフェアを開催している。ふるさと納税では、メロンなど人気がある。
- Q：北海道は寒冷の被害を受けやすく、品種改良に取り組んだ歴史もあると思う。非常に価値の高い米を生産する、苦労もあったと思うがどうか。
- A：北海道の指導機関農業試験所で品種改良を委託した。冷害に強い品種について、品種改良を重ね、ゆめぴりか、ふっくりんこと呼ばれる品種ができた。
- Q：造り酒屋は近郊にあるのか。そこほどのくらい供給しているのか。
- A：地元、金滴酒造がある。従来は主食用の米を流用していた。北海道で酒造専用の米を作りたいと始まった。供給は、平成26年産米では、きたしずくで181.5俵、吟風で845.5俵。



3 10月28日 札幌市就業サポートセンター（札幌市北区北24条西5丁目）

【調査目的】

官民共同の職業相談・職業紹介について

【調査概要】

札幌市就業サポートセンターの取組内容について説明を受け、施設見学を実施

＜説明の概要＞

○施設概要

場所：札幌サンプラザ1階 面積：197㎡

主な事業：官民共同職業紹介事業（官民共同は全国で唯一の施設）

実施主体：札幌北公共職業安定所

株式会社東京リーガルマインド札幌支社

○求職者に4つの支援：①職業紹介 ②求職活動の支援 ③職場体験 ④資格取得

○求職者の再就職支援業務：スタートセミナー、ワンポイントセミナー、ターゲットセミナー

○合同企業説明会：一般求職者を対象。参加企業は約25社、年2回開催。

○求人開拓および企業情報収集：民間の求人開拓スタッフが札幌市内の企業、事業所の求人確保。

○資格習得支援（240名）：資格対策講座（医療事務等）、スキルアップ講座

○職場体験推進（のべ30名：300日分）

受入企業に対し1日当たり3,500円の謝金、参加者に1日当たり2,500円の日当を支払う。

○労働問題・社会保険等に関する相談：社会保険労務士を相談員として配置

毎週水・木・金曜日 13時～17時。対象：退職や再就職を予定している人。

【質疑応答】

Q：民間の業者は毎年変わるのか。

A：1年ごとに変わる。企画提案により選定している。平成26年度と平成27年度では違う事業者が委託をしている。より時勢、雇用情勢にあった業者を選定している。

Q：事業の実施主体が2つに分かれているが、この予算措置は、札幌市がするのか、ハローワークも加わってそれぞれの持ち分ですか、仕組みはどのようになっているのか。

A：当センターの事業費、予算執行、負担の形は、サポートセンターの民間に委託する委託費は、全額札幌市の単費で行っている。ハローワークの窓口の職員は、ハローワークが人件費を負担している。

Q：障害者の就業支援策はどのようになっているのか。

A：ハローワークの中に、緑の窓口という障害者専門の窓口がある。障害者の就業支援は、一般の求職者とは違った求人開拓、就労支援が必要だと思っている。

